



S U A C

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE 20TH ANNIVERSARY

静岡文化芸術大学

創立20周年記念誌

未来へつなぐ
知と実践





09

卒業生だより

櫻井 洋

Sakurai Hiroshi

デザイン学部 技術造形学科 卒業

入学年：2000年

株式会社システムック ES事業部

入学前はどのような大学だと思っていましたか？
そしてそれは入学後に変化がありましたか？

漠然とCG(コンピューターグラフィックス)を作りたいという気持ちがあり、学科の募集要綱を見てそれができると思い受験を決めました。新しくきれいな校舎で学べることも魅力でした。

入学してからはCGというよりは3次元CAD(コンピューターによる設計支援ツール)の授業が楽しく授業の課題に熱心に取り組んだのを覚えています。また、ものづくりの面白さも学び、結果的にはCGとは離れた道に進むことになりましたが、様々な授業で色々な道を模索できるのもこの大学の魅力なのではないかと思っています。

大学での思い出は何かありますか？

たくさん思い出があり失敗ばかりしていたような気がします。演習の授業で羽が片側1メートルくらいある大きな手作り風車を作り、外に出したら風でもものすごい勢いで回り始め止められなくなったことや、機構の授業で製作した動物型の模型は発表の場でうまく動かなく先生方に叱責をいただきました。そのような失敗経験はその後の人生においても役に立っています。

所属した学科(ないしは大学全体)の良いところは何か？

私が所属していた技術造形学科は、運動力学の授業、CADの授業、材料力学の授業、統計学の授業等、仕事に直結する授業が多く、座学の他に実技でも金属加工、木材加工、CAM等を実際に体験することができ、仕事に必要な知識と体験が一通りで

きました。当時は仕事に直結するとは思っていませんでしたが、社会に出てそれらの多くの経験が役に立ち、驚きました。入った会社の業務内容にもよると思いますが、私のような機構設計の仕事に従事する者にとっては、必要な知識が一通り学べることが魅力と感じます。

大学で学んだこと(授業でもそれ以外でも)で何かに活かされていることはありますか？

ユニバーサルデザインの授業で視覚障害者体験をしたことがありました。当時は斬新な体験ではあったものの、これがこの先仕事に役立つのか、今一つ実感がありませんでした。

現在私は、大学で学んだCADの技能を活かし機構設計の仕事に就いていますが、色々な業務の中で、「テレビが聞けるラジオ(株式会社アステム製品)」という視覚障害のある方に向けた電子機器の開発に携わらせていただいたことがあります。製品の形状

を検討するにあたり、私は大学時代のユニバーサルデザインの授業を思い出しその経験を活かすことができました。ボタンの操作性や視認性において、使う人の立場に立ったより深い検討ができたと思います。

これからの静岡文化芸術大学に期待することはありますか？

企業、地域、と連携していただきこれからも開かれた大学として社会に貢献いただけることを期待しています。OBと学生が話せる場のような企画があればぜひ参加したいと思います。私自身そうでしたが、学生は高校や大学までの勉強や体験が、企業に入ってからの仕事にどのように役立つかわからなく不安を感じていると思います。これからも大学がそれらの架け橋になり続けていただくことを願います。

これから本学で学ぶ後輩たちに向けて何かエールをおくってください！

大学時代は色々なことに挑戦してください。やりたいことをとことんやってほしいです。勉強はもちろんですが、趣味にも情熱を注いで良いと思います。私は趣味でマラソンをしていて、毎年浜松シティマラソンに出場しています。大学の横を通るコースですので、走り抜けていく時パワーをもらえる気がします。私もまだまだ挑戦をしている身です。皆さんに負けたくないように頑張りたいと思います。

大学生活で学んだことが、これからの自分を形成するベースとなっていくと思いますので、今の時間を大切に、焦らず頑張ってください。

最後に、先生方、実習指導員の方、事務員の方々、友人や支えてくださるご家族に感謝の意を忘れずに、学生生活を存分に満喫してください。